

No.	意見内容	意見に対する考え方
1	利用者の属性、ニーズにつままして、アンケート等により調査をされるとのことですが、仕様書に、アンケートの実施期間や対象者（最低人数も含めて）を明示しておく必要があると思います。	仕様書において、利用者等に対して実施するアンケートの回収件数は200件（1グループから1件）以上としており、利用傾向等は把握できるものと考えています。 また、アンケート実施方法、項目、取りまとめ方法等については、あらかじめ発注者と協議し、承認を得ることとしており、適切な実施時期（時期、曜日、時間帯も含めて）についても検討していきます。
2	外的要因を踏まえた需要予測について、例として、政府による訪日外国人の目標、中空の第2滑走路、リニア新幹線が挙げられてますが、これらに加えて、津なぎさまち旅客船ターミナルと市街地をつなぐアクセス（乗合バス、タクシーなど）の運行事業者の意向、将来計画、便数、路線、さらには、空飛ぶクルマの動きなども含めて予測するように明示しておく必要があると思います。	仕様書において、以下（ア）及び（イ）を踏まえ、海上アクセス運航事業の今後20年間の需要予測を行うものとしており、津なぎさまちからの二次交通（バス、タクシー等）については、可能な限り今後の意向や将来計画等について事業者を確認し、空飛ぶクルマについても空の移動革命に向けた官民協議会での検討状況を注視しながら、必要に応じてこれらの要素を加味して需要予測を検討していきます。 なお、（イ）については、既に公開されている分析結果や考察等の資料を基に予測を行うことを妨げるものではありませんが、基にする資料については発行元を明らかにしたうえで事前に発注者の承認を得ることとしています。 （ア）「(1) 運航実績等の分析」及び 中部運輸局が令和7年度に実施した「中部国際空港における海上アクセス活性化事業」の調査結果の分析を踏まえた需要予測 （イ）政府が目指す訪日外国人旅行者数6,000万人という目標や、中部国際空港の代替滑走路・第2滑走路建設計画等を踏まえた旅客数予測、リニア中央新幹線の開通、中部国際空港島へのIR誘致その他発注者が必要と認めた外的要因を踏まえた需要予測
3	船舶仕様等の検討に当たっては、中部国際空港においても、カーボンニュートラルの目標達成に向けて、関係企業等に協力・依頼を求められた経過があったと記憶していますので、新造に当たりましては、カーボンニュートラルの視点も含めて検討するように、業務委託に係る仕様書に明示していく必要があると思います。	仕様書において、船体の規模や航海速力などとともに、燃料費高騰や環境への配慮等を踏まえた燃料の検討を行うこととしており、具体的には軽油、ハイブリッド及び電気などについて比較検討を行います。